

森の学校だより

R ろうきん

森の学校

ろうきん森の学校 2019年度 活動報告

Interview / Hiroshima
新たな森の活用に向けて
WITH コロナ

15

2005-2024 労働金庫連合会 × NPO の 20 年にわたる環境教育

20

FUKUSHIMA



森林整備で出た木材を利活用します！

ドラム缶窯による炭焼き



これまでの炭窯2つのうち1つを撤去し、代わりにドラム缶窯を設置しました。これで1泊2日の合宿で炭焼き体験が可能になりました。

作業機械取扱研修会支援



当施設において県林業労災防止協会などが、年4回実施しているチェーンソーと刈払機の取り扱い研修会の支援や実技指導をしております。



いわきの森に親しむ会
木田 理事長

自然エネルギー施設の風力発電設備、水力発電設備、太陽光発電設備、太陽熱温水器が1カ所に完成しました。小学生でもわかる解説版も設置しましたので見ていらしてください。

福島地区の

オススメ体験

森の自然体験活動



8月は湯ノ岳フィールド内でセミの抜け殻を集め、どんなセミが居たかを調べます。

R ろくきん × FUKUSHIMA



労金連新入職員研修

5月17日労働金庫連合会の新入職員研修が行われ、下刈りとカエデの植樹体験をしました。普段の業務を離れ自然に触れてよかったとの感想がありました。

Column

2019年度「総合学習プログラム」

いわきの森に親しむ会では小学校の総合学習の支援を年4回していますが、その内容を紹介します。

1 回目は、年間観察する樹を決め子ども達が名前をつけます。2 回目は、魔法の水(クエン酸水と重曹水)を使い、花の色が変わる実験をします。3 回目は、土壌に着目した2つのメニューを実施します。1 つは落ち葉の積もった土壌を少しずつ掘っていき、その変化を見ておいをかぎます。もう1 つは落ち葉の積もった斜面と裸の斜面に水をかけて水がどうなるかを見る実験をします。4 回目は、

いままでも外から見ていたものの中を見えるメニューを用意しています。冬芽をナイフで切りその断面を見て、外から見えない花のたたみ方などを観察します。

斜面に水をかける実験



落ち葉のカレンダー作り



11月の自然観察会では、落ち葉を拾い、落ち葉を使って来年のカレンダーを作ります。

ドラム缶窯で炭焼き体験活動



ドラム缶窯で焼いた炭を脱臭剤として活用します。



「ろうきん森の学校」を地域の財産に!

フォレストキッズ



ホールアースのキャンプ場で、金槌、釘、鋸、ナイフなどの道具を使って森の中で1日を過ごす自由選択プログラム。何をするかは、子どもたち次第。五感を使って全身で自然を楽しみました。

キャンプ場 食堂施設整備



設計から資材調達、基礎工事、棟上げまで、ペテランスタッフのアドバイスのもと施設整備技術を磨き、各種キャンプで使用する野外食堂をスタッフのみの力で完成させました。

R ろうきん × FUJISAN



富士宮地区労福協 秋の親子プログラム

袖野の里山を舞台に、家族向けのプログラムを実施しました。ホールアース農場で野菜収穫体験とその野菜をトッピングしたピザ作り体験を行い、秋の里山の1日を楽しみました。



ホールアース研究所
山崎 代表理事

コロナウイルスの影響により、森林空間が持つ社会的価値が再評価されると考えています。富士山地区でも、人と森の関わりの“あり方”を今一度丁寧に問い直し、より良い活動につなげていきたいと思っています。

富士山地区の / オススメ体験

里山つなぎ隊



森林や竹林整備を通して、地域の豊かな環境づくりのお手伝いをしています。

秋のイベント



田貫湖周辺の自然に親しみながら家族や友人との絆が深まるイベントを毎年秋に実施しています。

富士山の麓の森歩きを 楽しむプログラム



富士山の1000m付近の広葉樹が広がるエリアを散策しながら心身を癒すプログラムを実施しています。

Column

開催! 「生きるように働くことを考える会」を

新しい試みとして11月に、「日本仕事百貨」を運営するナカムラケンタ代表とともに、「生きるように働く」(三島出版)の読書会を実施しました。「生きるように働くこと」を考え、読書会後の里山デイナターを楽しみながら参加者全員での懇談の時間を設け

一人ひとりが、それぞれの「生きる」を見つめ直しました

で欠かせないのが心身の健康です。フカフカ落ち葉の道を歩き、植物や土などの様々な自然に触れ、適度な太陽の光を浴びながら樹木から放出されるフィトンチッドを吸収するなど、五感を通して様々な刺激を身体が受け取ることで、自律神経のパランスが整っていきます。これからもより良く生きようとする方々と伴走していきたいと考えています。



子どもたちに森で活動する機会を

森工塾 夏の親子キャンプ



夜の森と早朝の森を親子で探検。子どもたちはたくさん新しい発見が、大人たちは童心に返って森の時間を満喫してもらうことができました。

里山整備実習

グリーンウッドワークの森づくり



代表的な森の一区画を囲って森林調査を行い、現状の把握と今後の夢を語り合いました。この森に整備の手を入れて、新たな森づくりが始まります。



グリーンウッドワーク
協会
小野 理事長

森の中で目を輝かせながら虫を探したり、得意満面に刃物を使いこなしたり、そんな子どもたちを私たちは応援しています。もちろん、かつて子どもだった大人たちにも、様々な自然体験の場を提供していきます。

岐阜地区の

オススメ体験

足踏みろくろで木の器づくり



器を挽くための新型足踏みろくろを設置し、器づくりの講座をより充実させます。

R ろうきん × GIFU



労金連職員・家族向け 森の学校ものづくり体験

木の塊をノミで彫り進めて器をつくる体験会を、二日間かけてろうきんの森で開催しました。小さなお子様には簡単なお木づくりに挑戦してもらいました。

Column

森のようちえん全国交流フォーラム開催

2019年11月、岐阜県美濃市の森林文化アカデミーを会場に「森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ」が開催されました。3日間、幼児保育・幼児教育関係者はもとより、行政、学校、自然体験活動指導者、木育関係者など幅広い分野の方たち延べ1200人が参加しました。

全国から集まった仲間たちと記念撮影！

グリーンウッドワーク協会も実行委員として参画し、「幼児期における自然体験の大切さ」を多くの方々に知ってもらいたいという思いの下、日々の業務や家事・子育てに追われる中から時間を捻出して、約2年前から準備をしてきました。

フォーラムでは、岐阜県内外から集結した森のようちえんスタッフとともに、思いを共有し、自分や家族、社会のことをあらためて考える機会になりました。

竹ひごからつくる竹細工講座



竹林の有効利用の手段のひとつとして、暮らしに使える竹かごを編む技術を学びます。

子ども向けものづくり講座 小中学生を対象としたもの



削り馬にまたがって、銚(せん)という刃物を使い、クリスマスツリーをつくります。



森と日々の暮らしのつながりを体感しよう!

夏のふるさと探検



身近な里山を満喫する子ども向けプログラム。ハンモックや手作りブランコなどの森遊びや生き物探し、木こり体験など、チャレンジいっぱい1日です。

若手スタッフの技術研修



施設整備や道具小屋作りを通して、チェーンソーや刈払機などの使い方や資源を活用した散策道整備などについて、若手スタッフへの技術伝達を行いました。



かみえちこ
山里ファン倶楽部
石川 代表理事

森林整備活動、棚田の保全活動、地域資源を活かしたものづくり活動の3本柱で、森づくりに取り組んでいます。「森づくりは暮らしづくり!」を体感できる、発見と楽しみあふれるプログラムを提供していきます。

新潟地区の

オススメ体験

きのこにやさしい森づくり



草刈りや除伐で山の恵みのきのこがどんどん増える!里山の知恵を活かした森づくりを進めます。

らろきん × NIIGATA



森と棚田の保全活動

新潟県労働金庫および労金連合会職員、またその家族による棚田の稲刈りとはさがけを行います。水と緑あふれる棚田の環境から森と田んぼのつながりを感じました。

Column

開校式で新たな思いを胸にスタート!

2019年7月に「らろきん森の学校・新潟地区」の新たな拠点であるくわどり市民の森にて開校式を行いました。多くの関係者が集まり、思いを共有する中で、あらためて人や組織とのつながりが森づくりの大きな原動力であると実感しました。

棚田学校一日体験



はさがけ天日干しの棚田米!米作りを通じて森に抱かれた棚田を丸ごと楽しめます。

ちよいワラ体験会



ちよいと気軽に・笑って・ワラ細工!地域に息づく生活技術を学ぶ体験会を実施します。



2019年11月に実施した森林整備活動にて

空間を拡充するとともに、新潟地区の活動を紹介するブログを開設し、情報発信と仲間作りに入力を入れていきたいと考えています。

新潟地区では「地域とのつながりや地域資源を森づくり・ものづくり・人材育成に活かす」という視点を踏まえ、多くの方にご参加いただける場作りを進めていきます。2020年度は、くわどり市民の森に「ササユリの丘」と「もり森(もり)デッキ(らろきん森)の学校で、もりもり元気に、盛りだくさんで!」という2つの快適空間を拡充するとともに、新潟地区の活動を紹介するブログを開設し、情報発信と仲間作りに入力を入れていきたいと考えています。

新たな森の 活用に向けて

with コロナ

広島地区は、中山間地の里山がフィールドと
なっています。15年の整備を経て、素敵な
フィールドになってきました。新しい職員も
加わり、施設や地域との関係性が進展した
2020年、新しい試みを行っていただと思
います。

ひろしま自然学校

代表理事 志賀 誠治



ろうきん森の学校で
2005年の開校当時から
参画している広島地区。広
島市内から1時間あまりの
北広島町に拠点を置く、
NPO法人ひろしま自然学
校の志賀代表理事にお話
を伺いました。

ひろしま自然学校について
教えてください。

1990年代から広島県内で環境
教育や野外教育に取り組んでいた10
数名のキーパーソンが大同団結して、
2005年にNPO法人ひろしま自
然学校を立ち上げました。荒廃した
里山の整備・保全活動はもとより、動
植物調査、環境教育、自然体験活動な
どを通じて、環境教育の目的である
「環境に配慮した暮らしが実践できる
人づくりと持続可能な地域づくり」
に貢献するための活動を推進してい
ます。活動拠点としては、山県郡北広
島町内に「ろうきん森の学校 広島地
区」と小学校の廃校を活用した「地球
派塾」の2つの中心的拠点を有してい
ます。

志賀さん自身どのようなきっかけで
活動に参加するようになったのですか。

大学で教育学を学び、最初に就職
した公益法人ではカウンセリング
ルームの運営や心身医学に関する市
民講座の運営などを仕事の一部とし
て担当していました。カウンセリング
ルームに来る子どもたちを見ていて、
人工的な部屋の中でのカウンセリン
グに限界を感じ、1994年に独立し
たことをきっかけとしてカウンセリ
ングキャンプのようなことにチャレン
ジし始めました。1996年、北広島
町内に「地球派塾」という活動拠点を
設け、年間を通じてキャンプ活動など
を行うようになり、そのことがご縁で
2005年からは「ろうきん森の学
校」の活動にも関わらせていただくよ
うになりました。

「ろうきん森の学校」広島地区は活動開
始から15年が経ちました。森の学校の
活動を通じて地域がどう変わったか、
これからどんな地域にしていきたいと
考えていますか。

活動開始当初は、「ろうきん森の
学校」の運営会議に行政職員や住民

の方々に参加していただいて、運
営方針などについてご意見をいた
だくことが中心でした。そこから、
フィールドの草刈り活動での連携、
地域行事への参加、地域との交流
会の開催へと少しずつ発展して、
最近では「ろうきん森の学校」を
開放した地域イベントを協働開
催したり、今年度からは「お出かけ
公民館」と銘打って、「ろうきん
森の学校」での公民館活動・サロン
活動で、地域の方ができる手仕事
の開発をしていくことになりました。
著しく過疎高齢化が進んで
いる地域なので、環境問題だけで
なく、福祉や子育て、地域づくり
などと一体化した活動を目指す
ことで、「ろうきん森の学校」に行っ
たらみんなに会える。地域のこと
についていろんな話ができる。」と



HIROSHIMA

広島地区のメインフィールド ひろしま自然学校



ろうきん森の学校広島地区は、万代池（農業用溜池）を囲む10haの里山がフィールドです。散策道は約4kmあり、森のお散歩や森の中で体験活動を楽しむことができます。施設としては、研修宿泊棟「こぞってハウス」や「作業小屋」、地球教育プログラムの専用施設「アースエデュケーションハウス」、管理棟、テントサイト、シャワールームなどがあります。

広島県 北広島町は こんなとこ！



北広島町は、広島県の北西部に位置し、中国地方の中山間地です。北は島根県と接しています。「ろうきん森の学校」のある地域には、広島市内から車で1時間ほどでアクセスできます。2005年に4町が合併してできた町で、雄大な自然と田園文化が息づく町です。古くから山陽と山陰を結ぶ中継地として栄え、中世には砂鉄の産地でもあり、戦国武将毛利氏、吉川氏の遺跡群も数多く残っています。また、里山の環境を始め、ブナの森、湿原、草原等の自然環境もあり、貴重な動植物を見ることができます。

言ってもらえるような、地域の人同士の「つながり資本」を増やす拠点にしていきたいです。

活動する上での課題と、2020年度の目標を教えてください。

1番は「新型コロナウイルス」対策です。3月以降、予定していた活動がほぼすべてキャンセルになり、活動の休止状態が続いています。今後、何年かはこの影響が残ると考えられますので、このような社会状況に対応できる活動づくりが大きな課題です。2020年度は、「ろうきん森の学校」の活動を安全・安心の面から見直し、新たなパラダイムの構築にチャレンジする1年にしたいと考えます。



これから参加してみようと思っ
ていて、方々にお話ししています。

2020年度は、まずは安心して自然とふれあえる環境づくりとして、ファミリーを対象にしたデイキャンプや宿泊型のキャンプにたくさんトライしていこうと考えています。家族数も3家族程度に限定し、「NO密」で自然と触れ合える環境やプログラムを提供していきます。自然の中でゆっくり家族と過ごしたり、日頃のストレスを癒やしにお越しくください。



森を育む



毎週木曜日に「平日作業隊」と銘打って、フィールドの草刈りや枯損木の撤去などのフィールド整備を行っています。また、定期的・継続的な生き物調査を行うことで、里山保全活動による生き物の変化を記録しています。

森で遊ぶ



アメリカ生まれの環境教育プログラム「地球教育」を、日本で唯一体験することができます。また森の幼稚園、小麦プロジェクト、長期キャンプなど、様々な年代に応じたデイキャンプ、宿泊型キャンプを実践しています。

人を育む



大学生のボランティアグループ「なちゆるるず」の人材育成を始め、地球教育のトレーナー、コミュニティ・ワーカーなど、里山保全や環境教育、持続可能な地域づくりに求められる人材育成を行っています。

新型コロナウイルス 感染拡大による 自然体験活動の影響と 今後について



新型コロナウイルス感染拡大が自然体験活動団体に与えた影響は？

2020年4月に自然体験活動の全国ネットワークが行った調査によると、回答のあった全国236団体のうち、4月末までに100万円以上の損害(中止・延期等に伴う収入減)が見込まれる団体は半数近くに上り、今後100万円以上の損害が見込まれる団体は6割超となっています。調査全体での総額は約18億円、6割超の団体が法人の経営に影響を受けていると回答しています。※

日本経済全体でも深刻な影響が出ていますが、自然体験活動団体の多くがNPO法人・任意団体・個人経営で、もともと財政基盤が盤石でないため、影響が長期化することで事業・団体の継続が危ぶまれています。事業継続が困難になると、これまで自然体験活動団体が各地で行ってきた「森のようちえん」「教育旅行における自然体験活動」「個人向けエコツアー」等が行われなくなり、外遊びや自然体験の機会そのものが失われることとなります。

現在、どのような対策・取り組みが行われているのでしょうか。

緊急事態宣言解除の動きを受け、各団体・施設では活動再開に向けたガイドラインを策定しています。元々「自然とのふれあい」「人と人とのふれあい」を活動の柱に据えたものが多く、いわゆる3密のうち「密閉」「密接」については、従来型の活動を見直さざるを得ない状況です。定期的な検温・手指消毒の推奨はもちろん、定員を減らす、家族単位での募集に限定するとするといった対応も行われています。

一方で、これまで想定してこなかったオンラインを活用した試みも各地で行われています。動画配信を使ったエコツアーのライブ中継や、自然を身近に感じてもらうための動画制作、さらにはオンラインでのフォーラムの開催などです。もちろん、これらがすべて既存の体験活動に替わるものではありませんが、オンラインは距離や時間という従来の制約を超えて、参加できるきっかけを提供できる可能性が十分あることがわかりました。今後、ますますオンラインの活用を探る動きが広がっていくと考えています。

これからの自然体験活動の意義をどのように考えていますか。

この半年で人間社会は大きく変わりました。テレワークの広がりや、閑散とした大型連休など、1月には想像すらしていなかった光景が日常化しています。一方で変わらず咲き、ツバメがやってきて、季節は流れています。こうした身近な自然の変化に気づくことから、自分自身と他者への理解を深めることが、自然体験活動の大きな目的の1つだったのではないかと考えます。

オンラインコミュニケーションがどんなに広がっても伝えられないものに、「触覚」「味覚」「嗅覚」があります。これらは他者との関わりの中で、体験を通じて共有・共感することで、自分事として捉えることができるのではないのでしょうか。

変わりゆく世の中で「変わらないもの」は何か。20年という長期にわたって取り組む「ろうきん森の学校」を通して、引き続き探っていきます。

※詳細は「nature・Citizen」参照

文責：「ろうきん森の学校」全国事務局

（NPO法人「ろうきん」研究部）

大武井 幸



森のそばで「自分として生きる」こと

～ ろうきん森の学校 15年の歩みとこれから ～

2020年2月16日(日)、ろうきん森の学校開校15周年記念イベントとして、「自分として生きることをみんなで考える会」を開催しました。働き方や生き方、そしてあり方まで、多様な選択肢がある昨今。だからこそ、「自分として生きていく」ためにはどんな考え方や方法があるのか。もしかすると、「森のそばで暮らすこと」がそのヒントになるのではないか、という想いのもとに、本企画が立ち上がりました。



イベントは、「ゲストによるトーク&セッション」と「ゲスト&参加者による円卓ディスカッション」の二部構成で実施しました。第一部のトーク&セッションでは、ゲストの井東敬子さん(鶴岡ナリワイプロジェクト代表)から、「ないものはつくる・自分の可能性は自分で潰さない・人と自分の能力は大して変わらないからあなたにもできる」「自分として生きていると感じるのは言いたいことが言えることで、そのために自分の内側にいくつかの選択肢を持っておくことが大切。それが自信という基盤になり、小さな変化を生み出す土台となりうる。」とのお話がありました。

もう一人のゲストである信岡良亮

さん(株式会社アスノオト代表)からは、「森のそば＝

田舎では、自分自身が能動的に動くことで、物事を作ることができる。また人と人との信頼関係が強まることで、物事が発展していく様も体感することで

きた。こんなに面白い田舎や地域で

様々な事を体験する、学ぶ場(さとのぼ大学)があれば、いろいろなことができ自分らしく生きている人が育つのではないか。」「自分として生きるというのは、個人として面白く生きるという意味と、志を同じくする仲間とみる未来を面白がるという意味があると思う。」と



いったお話がありました。

そして第二部、ゲスト&参加者による円卓ディスカッションでは、

ゲスト・参加者・ろうきん

森の学校関係者が一緒に

なってディスカッションを行いました。参加

者からは、「自分として

生きるための第一歩として、

日々の仕事や時間の

使い方を、一つ一つ「自

分ごと化」してみるところから

始めてみたいと思った。」「自分として

生きることは、実は個人の快樂ではなく、コミュニティとして

みんなで面白いことに取り組むことなのでは?と感じ

た。」といった声が上がっていました。時おり、大きな笑い

声が響き、所定の時間をオーバーするほどの熱気が溢れる

場となりました。



今回のように、ろうきん森の学校を「生き方・あり方」という切り口で捉え、自然や森に必ずしも強い関心や関

わりがあるわけではない方々が集まるイベントは、初めての

試みとなりました。そこには、これまで築いてきた大切な

価値観を土台にしつつ、時代に即した新たな「ろうきん

森の学校のカタチ」を模索していきたいという私たちの想

いがあります。今後もイベントをきっかけに多様な方々と

つながることで、ろうきん森の

学校の可能性を探っていき

たいと思います。



📄 イベントの詳細報告は、ろうきん森の学校ウェブサイトにて
ご覧いただけます。(イベントレポートのPDFが開きます)

ABOUT ろうきん森の学校とは



森を育てるような長期的視点で 人材を育成することを目的とした 環境教育事業

ろうきん森の学校は、2005年から2024年まで20年間にわたって取り組む、労働金庫連合会と全国5つのNPOによる環境教育事業です。2019年度はのべ17,181人が参加し、累計参加者数は20万人を超えました。第II期6年目の2020年度も各地域に根ざした活動の定着と拡大に取り組みます。



豊かな里山の 再生

荒廃した里山の整備を通じて、生物多様性を取り戻し、地域の自然を再生。



人材の育成

安全で楽しいプログラムを提供するため、環境教育的視点を持った人材を育成。



自然体験 プログラムの 実施

里山を活かした自然体験プログラムを通じて、健康維持と精神的な安らぎを提供。



ろうきん 関係者への 研修実施

ろうきん関係者の参加を通じて、環境意識の醸成とコミュニケーションの促進を図る。

FIELD 現地事務局情報

本誌に掲載している体験の詳細は、下記の各拠点へお問い合わせください。

福島地区

NPO法人 いわきの森に親しむ会

〒972-8326

福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2湯ノ岳山荘内

Tel. 0246-44-3273

Fax. 0246-44-3273

Mail yunodake@gray.plala.or.jp

Web iwaki-mori.jimdo.com/

新潟地区

NPO法人 かみえちご山里ファン倶楽部

〒949-1734

新潟県上越市大字増沢962番地1

Tel. 025-541-2602

Fax. 025-512-1379

Mail kamiechigo@nifty.com

Web kamiechigo.jp/

富士山地区

NPO法人 ホールアース研究所

〒419-0305

静岡県富士宮市下柚野165

Tel. 0544-66-0790

Fax. 0544-67-0567

Mail forest@wens.gr.jp

Web wens.gr.jp/

岐阜地区

NPO法人 グリーンウッドワーク協会

〒501-3701

岐阜県美濃市2973番地1

Tel. 090-4793-9508

Mail greenwoodworker@gmail.com

Web www.greenwoodwork.jp/

広島地区

NPO法人 ひろしま自然学校

〒731-1221

広島県山県郡北広島町今吉田1197

Tel. 080-4069-0786

Fax. 050-3457-9921

Mail hns.mori2005@gmail.com

Web hs-gakko.wixsite.com/2005



この事業は「国連生物多様性の
10年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する
事業として認定を受けています。

INFORMATION

「ろうきん森の学校」に関するお問い合わせは
全国事務局（ホールアース研究所）まで



forest@wens.gr.jp

ろうきん森の学校

検索

www.mori-gakko.net



「ろうきん」の活動に関するお問い合わせはこちら

労働金庫連合会 総合企画部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-5-15

Tel. 03-3295-9332 / Fax. 03-3295-9328

Mail rokinren_mori@rokinbank.or.jp

Web www.rokinren.com/csr/